

## 平成 29 年度 三重四川災害対応連絡会全体委員会 議事概要

1 日 時：平成 29 年 5 月 29 日(月) 16:00～17:20

2 会 場：ホテルグリーンパーク津 6 階安濃の間

3 出席者：四日市市 森 智広 市長（代理：蒔田 弘危機管理室長）  
鈴鹿市 末松則子 市長  
亀山市 櫻井義之 市長  
津市 前葉泰幸 市長  
松阪市 竹上真人 市長（代理：永作友寛副市長）  
伊勢市 鈴木健一 市長  
多気町 久保行央 町長  
明和町 中井幸充 町長（欠席）  
玉城町 辻村修一 町長  
三重県 県土整備部施設災害対策課 梅谷幸弘 課長  
同河川課 松本英之 課長  
三重県 四日市建設事務所 幸阪芳和 所長  
同鈴鹿建設事務所 山口尚茂 所長  
同津建設事務所 岡崎賢一 所長  
同松阪建設事務所 満仲朗夫 所長  
同伊勢建設事務所 高橋建二 所長（代理：真伏宗樹 保全室長）  
気象庁津地方気象台 黒川美光 台長  
国土交通省三重河川国道事務所 川村謙一 所長  
同蓮ダム管理所 新高庸介 所長

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）付 森本 輝 企画官  
国土交通省中部地方整備局 児玉好史 河川部長

- 4 議 事： 1. 規約改正  
2. 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく各水系の減災に係る取組方針に対する主な取組状況・取組予定  
3. 話題提供  
①熊本地震・平成 28 年度台風 10 号を踏まえた防災対策の強化  
②中部地方の治水事業に関する最近の話題  
4. 意見交換等

### 5 議事概要

- 各水系の減災に係る取組方針に対する現在までの取組状況及び今後の主な取組について共有し、話題提供に基づき意見交換を実施した。

[出席者の主な発言]

#### 三重県施設災害対策課

- 防災ノートについては、毎年小中高校生に配布しており、各学校において防災教育に活用していただいている。これまでは地震・津波対策に関する内容のみだったが、近年の気象状況を踏まえ、平成 28 年度からは風水害対策の項目も追加している。
- ポータルサイト「学校防災みえ」については、平成 28 年 6 月から教育委員会 HP にて開設している。各家庭において防災の取組が一層進むよう、防災に関する様々な情報やクイズ等も取り入れており、平時からの水防災教育として、これらの取組を今後も引き続き行う。

#### 三重県河川課

- 県管理河川の水防災協議会の設置状況について現時点の報告をさせていただくと、県内には

11あり、このうちの2については直轄河川の拡大ということで対応し、残り9については、昨年度より協議会の設置を進めているところ。

- ・ 昨年は雲出川圏域について、10月6日に第1回協議会を開催し、年度内に第2回を開催、第3回を平成29年5月30日に開催予定。残り8の内、2については平成29年5月24日、25日に尾鷲と熊野で1回目の協議会を開催した。残りの6については、1回目の協議会の日程を調整しているところ。
- ・ 協議会開催にあたっては、直轄河川が先行しているため、中部地方整備局から助言をいただき進めているところ。今後、協議会を進めていく上で、関係機関の方にもご協力をお願いするのでよろしく願いたい。

#### 伊勢市

- ・ ハザードマップ更新に伴う対応については、市民の一人一人がどういった避難行動を起こしていけるのかという意識啓発を現在進めている。京都大学、三重河川国道事務所と連携しながら、それぞれの地域、それぞれお住まいの建物で、災害が発生した時に、どういったリスクが発生するのかということを知っていただくためのワークショップをスタートし、一人一人の避難行動に繋げることを進めていきたい。
- ・ 宮川は平成16年、23年に大洪水が発生し、洪水時の状況などを住民は見ているので危機感を持っていただいているが、きちんと避難行動に繋がっているかと言えば必ずしもそうではないところがある上に、高齢者の方も増えてきた。地域や消防団と一緒に福祉避難所等に逃げていただく段取りが大きな課題である。
- ・ 高齢化等で自治会単位の活動が難しくなってきたり、23の小学校区でそれぞれ「まちづくり協議会」が全て立ち上がったところで、ほぼ全ての協議会で防災・防犯に関する活動を進めていただいている。市政報告をさせていただき際、ハード面はできる限り行政がしっかりやるが、ソフト面の訓練等は自治会の皆さんで頼みますよと常日頃からお願いしている。
- ・ 中島学区の紹介があったが、昨年は勢田川沿川地域の小学校を交えた防災訓練を実施し、三重県から防災に関する奨励賞もいただいたところ。地域のモチベーションも非常に上がっており大変ありがたい。

#### 鈴鹿市

- ・ 自治会をはじめ各団体から依頼を受けると、市職員による防災啓発活動として、出前講座を実施している。平成28年度は約200件の出前講座を実施。地震や津波に関する講座の要望が多い中、鈴鹿川の周辺では風水害を想定した防災講座の要望も多いため、台風や大雨に伴う越水、また洪水浸水想定区域の説明など、浸水時に注意すべき点をきめ細かに説明させていただいているところ。
- ・ 土のう訓練については、毎年、出水期前に鈴鹿川河川防災センターにて土のうの製作訓練を行っている。この訓練は、市と防災協定を締結している三重県建設業協会鈴鹿支部の申し出により、伊勢湾台風上陸から50年の節目となった平成21年度から毎年実施しているもの。今年度は6月22日に開催予定。土のう訓練に合わせて、市内各地区の市民センター・消防署・公民館などに設置されている災害時用の土のうの点検・修繕も行い、作成した新しい土のうを配置している。
- ・ 今後の減災に関する取組については、防災マップを平成22年度に作成し、全戸配布したところだが、公表された洪水浸水想定区域図のデータや、避難所等の変更データも取り込んで、来年3月に新しい防災マップを作成し全戸配布する予定。
- ・ その他「広報すずか」の8月5日号で災害時の避難行動についての特集記事を組む予定。台風シーズンが到来する中、避難方法、避難所、避難情報の伝達などについて、市民に、より正確な知識を伝えていきたいと考えている。

#### 亀山市

- ・ 話題提供の中で、ハード・ソフトそれぞれの対策はあっても、ソフト対策のメンテナンスをしていく難しさがあり、重要であるとの話をいただいたが、まさしくそのことを実感している。行政が情報を沢山出しているが、果たして届いているのか、あるいは届いているつもりになって

いるのではないかと、そういう中でどのように質を高めていくのが大きなテーマとなっている。

- ・ 県で、子供の災害意識の教育に取り組んでいただいているところだが、今年の亀山市水防訓練には少年防災クラブに参加をしていただき、土のう作りやドローンを活用した現場の状況確認等を共に体験するような取組をはじめたところ。
- ・ 今後についても、人づくり対策の質、大人はもちろん、将来世代に多くの英知を入れていく必要があると考えているので、これから高めていきたい。

#### 津市

- ・ ハザードマップや浸水想定区域図等を公表すると、住民の方が心配されるのではないかと、あるいは行政がいろいろ準備すべきことも増えるので、公表を躊躇するようなことが一昔前はあったのかもしれないが、今や全くそういうことがないように思っている。住民意識も高まり、減災のために、少しでも何かをやっておく、あるいは何かをできるようにしておくということを市民も感じておられる。したがって、必要な情報はしっかり出していくべきで、その為の作業を今後もお願いできればと思っている。
- ・ 一例として、波瀬川と雲出川下流で避難のあり方検討会では、極めて科学的なデータを出していただいて、今までは雲出川下流であれば、一度に 14,000 人を対象に避難勧告を出していたところを三段階に分けて発令ができるようになった。しかも、どこから勧告を出すのかということ、事前に区域を区切って出せるようにしていただいた。これは首長にとっては大変ありがたいことだった。これまでは、批判を受けることが多かったが、勧告を段階的にシャープに出せるようになったので、行政にとっても良いことだし、市民にとっても、あなたのところが発令されれば、本当に逃げてもらわないといけないですよということを伝えることができるようになった。
- ・ 他河川でもやりたいということで県にお願いしていたところ、良いタイミングで水防災意識社会再構築ビジョンが出て、県のトップランナーとして、雲出川圏域県管理河川水防災協議会を立ち上げていただいた。先行的に志登茂川については同じような作業をしていただき、かつ安濃川・相川についても、何れデータをいただけることになっている。
- ・ 避難勧告・避難指示の発令範囲の細分化、タイムラインのような順序を決めていくことが予めできるため、市民にとっても避難勧告が出るのが分かっていることは大変ありがたいこと。データをいただいた後、どういう風に解釈し、どういう風に市として避難勧告の手順としていか、防災計画にしっかりと反映していきたい。

#### 玉城町

- ・ 取組状況をお聞きして、実行しないといけないと思ったのは水災害教育で、早速取り組もうと考えている。平成 16 年の宮川災害、平成 23 年の紀伊半島豪雨災害で、2 回の避難勧告を発令したところであり、江戸・明治の時代に決壊した経験を持つ地域の人達の意識は元々高かったが、町全体としても防災に対する意識が高まってきたと感じている。
- ・ いろいろな訓練も自主的に行ってもらっているが、まだまだ全域には至っていないというのが現状であり、他市町の取組事例を参考にしできることを早速取り組んでいきたい。

#### 津地方気象台

- ・ 5 月 17 日から注警報・警報について理解しやすいように改善がされた。以前はテキストのみで出されていたものが、今は黄色・赤色で色分けして公開することになったので、それを見ていただくと、いつぐらいに危なくなるか、いつぐらいから対応を取ればいいのか、分かり易くなったと思っているのでまずは見ていただければ。
- ・ 警報級の可能性についても、中・高を付けることになり、高の場合は警報の可能性が高い、中の場合は、まだ中途半端かもしれないが、その可能性があるということを、視覚的に捉えられるよう併せて 5 月 17 日から公開をしている。これらは防災対応の参考になると思うので、積極的に利用していただきたい。
- ・ また、7 月上旬からは、きめ細かなメッシュ情報も出す予定。洪水・浸水の情報も 1 キロメッシュで公開されるので、よりイメージを持っていただけるものになっている。三重県は 400 河川くらいあるが、洪水もメッシュ情報で提供できるよう準備が整いつつあるので、その際は気

象台から紹介をさせていただきたい。

#### 松阪市

- ・平成 25 年度に避難所マップを作成し全戸配布したところだが、津波浸水想定や洪水浸水想定区域の公表もあったため、見直しを行い、今年度に全戸配布をしていきたい。他にも市民向けの分かりやすい防災啓発冊子も全戸配布していく計画がある。
- ・話題提供にあったように、避難所が浸水エリアに入っていたり、山間部の避難所は土砂災害のレッドゾーンの中に入っていたりということもあり、地域の方としっかり話をしていかないといけないと思っている。
- ・住民協議会の中には、例えば夜間に避難訓練をするなどの意識が高い地域もあるが、現実には地域によって温度差があるため、市全体の防災意識が向上していくような啓発活動をしていく必要があると思っている。
- ・櫛田川のネック点解消のハード対策については、どういうふうにしていけばいいかということとを相談していきたいので、今後ともよろしくお願ひしたい。

#### 四日市市

- ・ハザードマップを沢山出しているが、マップの見直しを今年度から着手するために検討会の準備に着手している。平成 30 年度にできればと考えているが、今回のコンセプトは、逃げ時を住民に分かりやすく伝えたいという思いで「逃げ時マップ」のようなものと考えている。
- ・今までは、どちらかといえば情報提供サイドで考えていたが、できるだけ住民目線で、住民の立場で考えて、どうすれば避難行動を取っていただきやすいかという視点で検討に入りたい。

#### 多気町

- ・昭和時代には土砂災害があったが、平成に入ってから幸い大きな災害は起きていない。一方では、社会福祉協議会と一緒に、災害を受けられた方を多気町で受け入れできるようボランティアセンター設置について訓練をしている。
- ・他にも職員が全て認識できるように、緊急メール発信の対応ができるような取組も実施している。
- ・避難所の見直しについても、今まで想定していた避難所が浸水してしまう可能性があるため、その見直しも実施中。今回の会議も参考にして更に検討していきたい。

以上

(事務局作成)